

あいち農産物生産流通レポート

平成23年9月号

情報サロン		
・LEDを活用した花きの開花および生育の調節技術を開発 ～電照光熱費を90%削減～	(農業総合試験場)	1
地域トピックス		
・～農地の担い手を育てる～ 豊田市農ライフ創生センター実践栽培判定会の開催	(豊田加茂農林水産事務所)	2
東日本情報		
・「震災復興と花の力」について	(東京事務所)	3
西日本情報		
・第64回関西茶品評会が西尾市で開催されました	(園芸農産課)	7
フラワーページ		
・バラの花色と花型によるイメージ分類について (花・色・デザイン研究所 花の色彩コンサルタント荏原温子)	8
青果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)		10
・名古屋・東京市場における青果物の9月の見通し		11
花き		
・切花・鉢花の9月の見通し(県内市場)		23
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2011年6月)		27
関連指数		28

内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所行政課農産物流通対策グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6417

LEDを活用した花きの開花および生育の調節技術を開発

～電照光熱費を90%削減～

研究の背景

本県のキクを始めとする電照を行う花きは、主に白熱電球を用いた開花調節により、周年栽培されています。しかし、電力消費量が高い白熱電球は環境への負荷の低減から2012年までに製造が中止されるため、代替する新たな光源の開発が求められていました。

技術の内容

新しい光源として注目されるLEDは消費電力が少なく、長寿命であり、開花調節や品質向上に必要な波長(光)を集中的に照射することが可能です。この性質を利用して、花きの開花や生育の調節に有効な波長を明らかにするとともに、白熱電球に代替できるLED電球の開発を行いました。

キクについては、夏秋ギク、秋ギクを用い、花芽分化抑制



に最も有効な波長を調べた結果、600～640nmとなりました

写真1 電球型

LED電球を開発しました(写真1)。花芽分化抑制が困難な夏秋ギク品種岩の白扇を用いて90Wの白熱電球と比較したところ、130mW/m²以上の放射照度で電照することにより、白熱電球に代替できることが分かりました。

鉢物については、521nm～659nmの照明により、短日植物のヒマワリやコスモス等の開花の抑制や長日植物のルドベキアやキンセンカ等の開花の促進がみられましたが、植物種により反応に有効な波長域が異なっていました。また、中性植物では745nmの照明によりスパティフィラムの株高や花茎の伸長がみられ、521nm～659nmの照明では、インパチェンスやアフランドラ等の株高が低くなり、コンパクトな草姿となることが分かりました(写真2)。

技術の導入効果

白熱電球をLEDに切り替えることで、10分の1の消費電力で電照栽培でき、生産コストの低減とCO₂の排出量の削減による環境への負荷の軽減が可能となります。また、キクの花芽分化抑制の他にもLEDの波長によっては、鉢物の花径を大きくしたり、コンパクトな草姿にするなどの効果が期待できます。

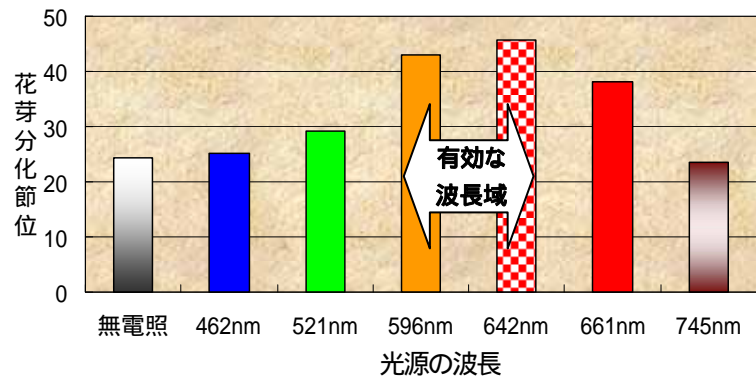


図1 キクの花芽分化抑制に有効な波長(品種:岩の白扇)

た(図1)。そこで、県内の企業との共同研究により有効波長の634nmの波長を持ち、防水性かつ光の均一性を備えた9W(ワット)のLED電球を開発しました(写真1)。花芽分化抑制が困難な夏秋ギク品種岩の白扇を用いて90Wの白熱電球と比較したところ、130mW/m²以上の放射照度で電照することにより、白熱電球に代替できることが分かりました。

鉢物については、521nm～659nmの照明により、短日植物のヒマワリやコスモス等の開花の抑制や長日植物のルドベキアやキンセンカ等の開花の促進がみられましたが、植物種により反応に有効な波長域が異なっていました。また、中性植物では745nmの照明によりスパティフィラムの株高や花茎の伸長がみられ、521nm～659nmの照明では、インパチェンスやアフランドラ等の株高が低くなり、コンパクトな草姿となることが分かりました(写真2)。

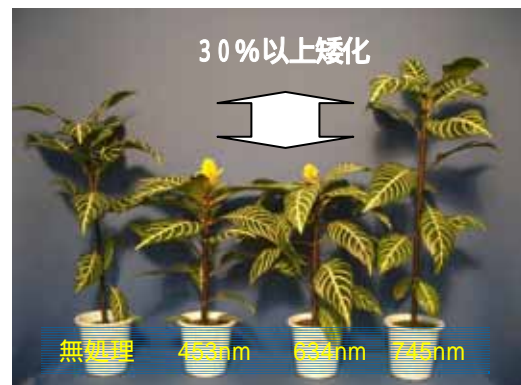


写真2 アフェランドラにみられる矮化効果

～農地の担い手を育てる～
 豊田市農ライフ創生センター 実践栽培判定会の開催

豊田市とあいち豊田農業協同組合との共同運営で平成16年4月に創設された農ライフ創生センターは、本年8年目を迎えます。

同センターでは、定年退職者などの人的資源と遊休農地の土地資源との融合により、意欲ある市民を新たな農業の担い手として育成しています。

農地を持たない方には2年間の研修期間の「担い手づくりコース」、農地はあるが栽培経験の無い方には1年間の研修期間の「農地活用帰農コース」を用意し、基礎・専門教科や実践栽培に関するカリキュラムに添って「生きがい型農業」の事業を行っています。

「担い手づくりコース」ではこれまで6年間で276人の研修修了者を輩出し、そのうち235人が就農しました。就農率は85%を超え、その内訳は新規就農者が159人、既存農家54人、援農22人でした。これまでにあっ旋した農地面積は延べ31haを超えています。

また、同コースで農地のあっ旋を希望する人は、研修受講日数の8割以上の出席が必要で、実践栽培の評価、就農計画の内容など判定を受けることとなっています。

今年は担い手づくりコース7期生について7月7日・8日に実践栽培判定会が開催されました。なすを指定作物とし、他に果菜・葉菜・根菜各1品目以上を一人200㎡の農地で栽培するものです。本拠地である四郷地区の他にも高岡地区・下山地区にも判定ほ場があり、農ライフ創生センター所長を始め、農業委員長、豊田加茂農林水産事務所農政課・農業改良普及課等が判定員となり、農地あっ旋希望者33名について評価しました。

草の管理など十分でないほ場については秋冬作において再判定扱いされましたが、それ以外のほ場は概ね良好に管理されていました。研修ほ場は春先に指定されるため、研修生にとって研修二年目からの作付けとなりますが、遠隔地から通う研修生もいる中、どの作物をみても精一杯栽培管理された様子が伺えました。担い手の卵達の成長が楽しみに思える実践栽培判定会でありました。



愛知環状鉄道四郷駅前のほ場



指定作物を観る判定員

「震災復興と花の力」について

花き業界はリーマンショック以降の景気低迷と東日本大震災の影響で過去にない厳しい販売状況が続いています。さらには輸入花きの増加もみられ、早急な振興方策が求められています。そのような中で、8月24日、東京都中央区築地にあるJJK会館において全国生鮮流通フォーラムが開催され、農林水産省生産局生産流通振興課・花き産業振興室の佐分利応貴室長を講師に招き、「震災復興と花の力」と題し、業界関係者自らが「花の力」を再認識し、情報発信する必要性についての講演がありましたので、要旨を紹介します。

震災復興

1. 震災と風評被害

東日本大震災の被害は、死者・行方不明者が2万人以上、被害総額は16～25兆円、被害面積は6県を合わせて23,600ha（東京ドーム5000個）と甚大です。

被害後の花き販売について、特に福島県産花きの価格が低迷しました。例えばスプレーギクでは、愛知県産が前年対比6割下落したのに対して福島県産は8割下落し（50円/本 10円/本）、明らかに風評被害と思われることがありました。

2. 花き産業振興室の取り組み

風評被害対策については、花きの放射能基準及び測定データもない状況であったため、下図のとおりホームページで安全性についての情報発信をおこないました。また、海外向けには英文で地図付きの文書を作成し、情報発信を行いました。その後、原子力損害賠償紛争審査会で、明らかに風評被害で価格低下している福島、茨城、栃木3県から生産される花きが損害賠償請求の対象となりました。

また、東北支援のため、「飾って応援しよう」ポスターを全国花き振興協議会の協力で全国の市場、小売店等に1万5千枚配布しました。

Q. 野菜等の出荷制限対象となっている福島県産、茨城県産、栃木県産、群馬県産、千葉県産の花を飾っても大丈夫ですか

A.

1. 現在、事故が発生した原子力発電所から半径30km以内の農産物(花を含む)は、出荷されていません。
2. もし、今回ハウレンソウから発見された最も高い数値である5万4100ベクレルの放射能をもつ花があったとし、これを1mの距離に2ヶ月間置き続けたとすると、被ばく量は合計で0.003ミリシーベルトになります。これは、日本における自然界からの年間平均被ばく量13ミリシーベルトと比べるとかなり低い数値です。なお、世界の年間平均被ばく量は2.4ミリシーベルトです。

【参考】外部被ばくについて

放射能の被ばくには内部被ばくと外部被ばくがあり、花からの被ばくは外部被ばくといえます。

花の力

1. 花き産業の振興を考える

(1) 花き業界に蔓延する病は深刻

花き業界は 売上減少（低血圧）で意欲低下（無気力）、 国際競争力低下（免疫力低下）で自信喪失、 花文化の希薄化（環境悪化）で無自覚の病状悪化、という病気に罹っています。

何をやってもだめと考え、何もしないことが合理的だと無気力に陥っています。こうした事態を改善するには、業界全体で一つでも小さな成功体験をして自信をつけることが重要です。小さな成果であっても波及すれば次への意欲、行動を生み出すきっかけとなり、確実に花き業界が変わることができるはずです。

(2) フラワーバレンタインの取り組み

そこで、今年2月に始まったのがフラワーバレンタインであります。「男性から女性に花を贈る2月14日」をテーマに業界がキャンペーンを実施しました。

世界のバレンタインデーは男女がお互いに愛を伝え合う日とし、男性から女性に花を贈る日でもあります。アメリカ映画「バレンタインデー」（バレンタインデーのラブドラマ）が日本でも来年オンエアされるそうです。お隣の中国でも「情人節」といって、男性が女性にバラを贈って愛のメッセージを伝えています。

ならば日本でもグローバル化の波にのりおくれるなということで、花き業界が一丸となって取り組みました。銀座、渋谷、大阪など各地で花束配布などのイベントが行われ、テレビでも放映され、自衛隊などへの贈呈も行われました。

某ネット調査によると、このイベントの認知率は16%（店頭ポスター8%、テレビ8%）、イベントを実施した花き店舗の売上は11%アップしたそうです。百貨店、映画館、ホテル、レストラン、ラジオ、テレビ等の協力もあり、来年に向けて準備が始まっています。

チョコレート業界は、50年かかってバレンタインデー需要をつくりだしました。長いスパンで取り組む必要があります。



2. 花き振興するための方策

(1) 花き振興 - 何はともあれ「需要拡大」 -

需要拡大のためには、花きの効用を理解してもらい、花きを楽しむ「きっかけづくり」をすることで購買意欲を高め、購買者が続けて購入できるように「定着」させることが重要です。

花きの効用に対する理解を深める

無関心層、企業などを対象に花や緑がもつ情操教育、メンタル対策、防犯などの効用を説明して理解してもらうことが大切です。

「正しい知識普及事業」（予算 900 万円）

花を買う「きっかけ」づくり

日頃花を買わない人（無購買層）を対象に、母の日、父の日、結婚記念日、誕生日などを活用しても買ってもらう「きっかけ」が必要となります。先ほど述べた「フラワーバレンタイン」は「きっかけ」の一つです。

「花育事業」（予算 1,300 万円）

花き購入の「定着」化

購入した消費者にリピーターとなってもらうことが重要となります。そのためには消費者満足度を上げる必要がありますが、消費者満足度は5段階評価で5でなければいけません。そのためには花の品質保証、特に花の日持ち性が重要であります。

当然、日持ち性は店頭だけで向上できるものではなく、生産、流通、消費のどの過程においても対応することが重要です。

「日持ち保証事業」（予算約 1800 万円）

「需要拡大」のネタは沢山ある

今、消防法の関係で宝塚劇場で花を贈れなくなったり、危険だからと学校の教室で花瓶が置けなくなったりしていますが、こうしたかつての習慣を復活させるためのアイデア、行動ができれば需要喚起につながります。例えば、予備校に花を置いたら成績アップにつながるなどの事例が出てきて需要が高まればおもしろいと考えたりしています。

（２）花き振興 - 国際競争力の強化 -

定時定量で低価格な輸入花きに対して国産はかないません。これら外国産花きと競争しない品目、輸入品が出てこないマーケットをいかにつくるかが求められます。また国産産地のファンを増やすことで、産地が活性化します。

生販連携体制構築事業（予算約 800 万円）。

（３）花き振興 - 国産花きの魅力を武器にする -

IPM Essen など海外博覧会で最優秀賞をとるなど、日本の花きは世界で高い評価を受けています。世界一品質が高いと評価を受けると一方で、価格が高いのがデメリットです。

来年4月から半年間、オランダのフェンローで10年ぶりに「フロリアード2012」が開催され我が国も出展します。審査基準に沿っていいものを出せば、日本の花であれば金賞がとれます。この成果が国内花きのPRになります。お菓子のモンドセレクションは有名ですが、実はベルギーの小さなイベントで、出品の半数が日本からです。各メーカーはここで金賞をとることで日本でのブランド価値向上と販売促進に生かしています。

（４）花き振興 - 花文化の復活 -

花のある暮らしの提案、中でも子供への「花育」がこれからより一層大切となります。「花育」に参加した子供達の目は輝き必ず笑顔で喜びを表しま

す。農水省では花育副読本「花をさがしに行こう」を作成し支援しています。

3. 「花の力」が社会を変える

今世界で起こっている戦場には「花」がありません。「花」が売れない世界です。日本では年間3万人が自殺しています。こうした不幸をなくすためには、社会の絆を深めて1人にしない。コミュニケーションが大切です。花はコミュニケーションの最強ツールであり、社会問題解決の万能薬です。

例えば、第20回全国まちづくりコンクールで入賞した大阪の事例では、花を飾った所では空き巣などの犯罪が減少したそうです。東日本大震災の被災地では、がれきや亡くなった人に花を手向ける姿が多くみられました。また、岩手県田野畑村で津波被害を免れた1本の奇跡のサクラが花を咲かせ、被災者の心を癒しました。

このように花は、「愛を語る」「悲しみを癒す」「幸せを咲かせる」「風水(運氣)」「創造性アップ」「防犯」「雇用」「花育」などオールマイティです。

被災地に食料を届けると奪い合いにあることもありますが、花を届けると笑顔が生まれます。花を介して地域にコミュニティーができ、「社会全体の花育」ができれば良い社会になります。そのための仕組みづくりが大切となります。

4. さいごに

(1) 花人は地域のパワースポット

花人(花屋さん)はコミュニケーションをとりながら顧客の趣向に合わせて生花(「花の力」)を販売しています。その意味で、花人はコミュニティーの核であり、地域のパワースポットでもあります。

(2) 流通の原点に立ち返る

どんな素敵な花も、お客さんに届く「真実の瞬間」に価値が決まります。そのため流通は、物流と信用とコミュニティーを結びつける役割を担っています。

残念ながら、市場が産地と消費者を結ぶ3次元の情報を売上データという1次元のベクトルに変換した数字のみで花きを語ってきた側面があります。今後は流通の原点に戻って役割を担う必要があります。

(3) 業界が一丸となった振興

かつて、生産、市場及び小売が一丸となって消費宣伝をしようという「千分の一構想」がありました。昨年始まったフラワーバレンタインデーも業界全体で取り組む趣旨で活動しており、さらに多くの参画が期待されます。

(4) 自信を持つ

AIPH(国際園芸家協会)によると、日本の花需要は世界一という花王国で、産出量は世界第4位、世界産出量の10%近くを消費しているそうです。

日本の花き産業はだめなんだと考えるのではなく、世界的なんだという自負をもって良いと考えます。

第64回関西茶品評会が西尾市で開催されました

関西7府県（愛知県、岐阜県、三重県、滋賀県、奈良県、京都府、兵庫県）において輪番で毎年開催している関西茶品評会が、西三河農業協同組合事務センター（西尾市）で8月3日（水）から5日（金）にかけて開催されました。

関西7府県産の新茶を一堂に集めて優劣を競う関西茶品評会は、今年で64回目の開催となり、伝統ある茶の品評会です。愛知県では、平成14年に豊田市で開催されて以来、9年ぶりの開催となりました。

今回の品評会では、「普通煎茶」、「深蒸煎茶」、「かぶせ茶」、「玉露」、「てん茶」の5つの茶種、572点が出品されました。

愛知県は全国第2位の生産量のてん茶を始め、普通煎茶、深蒸煎茶、かぶせ茶等の多様な茶種が栽培されていることが特徴で、玉露を除く4茶種、186点が出品されました。

審査は、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所茶業研究監を始め、各府県の茶業試験研究機関職員や茶業団体関係者の審査員26名で行いました。

茶品評会の審査は外観審査と内質審査があり、外観審査では、茶葉の形状や色あいを審査しました。内質審査では、お湯を注いだ後のお茶の色や茶葉の香りを審査したり、お茶を口に含み、その甘味、渋味、苦味等を審査しました。



今年の品評会は、春先の低温が影響し、一番茶の摘採が平年より1週間程度遅れ、収穫量も少ない中で、生産者は出品に苦労しました。しかし、全ての茶種において、それぞれの特徴を備えた秀品が多数を占め、ハイレベルな審査となりました。

審査結果は5つの茶種のうち、かぶせ茶とてん茶の2部門で愛知県の生産者が農林水産大臣賞受賞となりました。

第64回関西茶業振興大会の行事としては、9月7日（水）にウインクあいち（名古屋市）で品評会出品茶の入札販売会、11月19日（土）に西尾市文化会館で式典及び茶の消費拡大PRイベントを開催する予定です。



バラの花色と花型によるイメージ分類について

気がつけば、花に関わる仕事を始めて 19 年になります。花色に特化し、美しいカラーコーディネート、個々の花のもつ色彩の魅力を活かす方法、どんなタイプの人(ライフスタイル、性格、嗜好)が、どんな花を好むのか、どんな場所にどんなイメージの花がマッチするのか、売れる商品はどれか等、常に色彩の観点で関わってきました。

花の消費者である女性は色に敏感

長年、専門学校での講義やセミナー等で数多くの女性に会い、女性の色彩に対する関心の強さを実感してきました。花の消費者の大半である女性は、男性が思うよりもはるかに色彩に関心を寄せています。好きな色は、無条件にその人の心を癒し幸せにしてくれるものなのです。そして、各々の人が何気なく選ぶ色彩には、実はその人の性格や嗜好が隠れていると色彩の仕事を通じながら強く感じてきました。



バラ診断とバラの魅力講座には数多くの女性が参加

バラの花色と花型によるイメージ分類の研究

今まで、生産、流通、販売に至るまで花業界の方々向けにセミナーや講演を数多く行ってきました。しかし、花業界に関わらず、どの業界でもそうですが、企業や団体のトップは男性が多く、感覚的な事柄は、なかなか男性に理解してもらうことは容易な事ではありませんでした。そこで 4 年前より「バラの花色と花型によるイメージ分類の研究」に着手し、データをもって感覚的な事柄を検証してみようと思い、現在も進行中です。今までに、関東、東海にて女性対象に約 550 名にアンケートを行い、代表的なバラのイメージの心理調査を行ってきました。各花色、各花型のバラの代表品種を選定し、それぞれの品種に対して、多くの人々が、どのようなイメージをもっているのかを心理調査しました。同じバラでも色が変わればイメージが変わり、さらに同じ色のバラでも花の形が変わればイメージが変わります。ブライダルシーンであれば、花嫁に似合うブーケの色やデザイン、会場のイメージにマッチした会場装花の色合い、そして、ギフトであればプレゼントされる方の好みや立場にあった花のギフトがよいでしょう。このように色彩は、関係性がとても大切なのです。

色彩は経営資源である

残念ながら、まだまだ商品単体での見方が主流ですが、商品をいかすも殺すも実は色の

組み合わせ次第なのです。簡単な例は、鉢物であれば、植物にあう鉢の色、デザイン、質感。切花であれば、花どうしの配色、ラッピング、リボンなどのコーディネートとなります。2年前から鉢物の卸売市場さんにて社外アドバイザーとして商品企画に関わらせていただいておりますが、鉢の色やラベルの色は、植物の商品性を高めてくれる大きな付加価値になりうることを強く実感しました。まさに“色彩は、経営資源”なのです。女性は、本能的に色彩感覚に優れていますが、男性はどうしても機能に目が行き、色彩は軽視される傾向にあります。これは性差なので仕方がないのですが、是非、男性の皆さん、色は経営資源であると頭で理解をしてください。花の魅力にはやはり色彩は欠かせません。まだまだ花業界は、その武器である色彩を十分に活かしてきれていないのではないのでしょうか。言い換えれば、まだまだ、チャンスがあるということです。日本人は、本来、繊細な色彩感覚を有した民族なのですから。

人の心と花を結ぶ“バラ診断”

人は、花に何を求めているのであろうか？この問を今まで何度となく長年、講演やセミナーを行う度に自問し続け、今の所、私の出した答えは“花は心である”です。人は気持ちが明るくなる為に花を買ったり、相手に喜んでもらう為に贈り物にしたり、そして心が和むから花見に行くのではないのでしょうか。これは、花や緑、自然に心が癒されるという人間の本能でしょう。

そして、男性と女性では、性差により花に対する価値観や評価の着目点が異なります。まだまだ、現状、男性目線の花の売り方ではありますが、女性目線の販売方法にシフトすることにより、消費者である女性の心をつかむことも可能です。そこでは、色彩やイメージが重要な鍵となります。そして人には好みがあり、日により、気分も変わります。

現在、“バラ診断”というバラの花を用いたオリジナルカラーセラピーを行っています。これは、好きなバラや気になるバラを選ぶことにより、その人の心理状態を読みとるものです。“気になるバラはあなたの心の鏡です”をキャッチコピーに、理想の自分になる為のあなたを応援してくれるバラをアドバイスさせていただいております。色彩心理とカラーセラピー、バラの花色と花型のイメージ分類の研究、今までの長年に亘る花の色に関する知識と経験を融合し、まとめあげたものです。(財)日本花普及センターの調査にもおいても、「もし自分のために花を買おうとしたら、花や植物と接することで、何を期待しますか？」の質問に対し、「気持ちを盛り上げ、自分を元気づけてくれる癒し」が一番多い回答でした。自分の気持ちを応援してくれる花がわかれば、自分の為に、花を買いたくなる女性も多いのではないのでしょうか？

女性の象徴、そして美しさの象徴でもあるバラを用いた“バラ診断”を通じ、女性の生き方を応援し、そして花の魅力をこれからも数多くの人々に伝えていきたいと思っております。

人と色（植物・花）の関わり



愛知産青果物の動向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ±2%台以内
 や や : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大 幅 : ±16%以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：いちじく）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
22年実績	588	582 (99%)	650	650	愛知 (99%) 和歌山 (1%)
23年見通し	588	—	650	—	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>主な産地はほとんど愛知県で、知多、三河など。他県では和歌山。 今年は、雨も多く、台風の影響もあったが、生育は比較的順調。 入荷量は前年並みで、価格も平年より高めではあるが、前年並みの見込み。</p>			<p>品種の変化は特になく、ドーフィンと、早めに出荷が始まるサマーレッドが中心。 若い人があまり食べない傾向にあるため、消費宣伝は、子どもを対象とした、ジャムやゼリーなどの加工品が中心。 生産者が高齢化しているため、作り手が減少し、一人当たりの作付面積が増えている。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：ぎんなん）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
22年実績	37	29 (59%)	1,591	1,744	静岡 (12%) 福岡 (8%) 岐阜 (5%)
23年見通し	40	—	1,500	—	
概 要 と 見 通 し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知産の入荷は、今月から本格化する。ここまで、天候等にも恵まれ、順調にきており豊作型で順調な出荷が期待できる。他産地も徐々に入荷がはじまるが、やや遅れ気味との情報もある。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>			<p>この時期に出荷されるぎんなんは、秋の感じさせる商材として業務筋を中心に人気が高いが、荷動きが景気の影響を受けやすく、情勢は震災、円高等、マイナス材料が多い中の展開となる。 愛知産は品質的には評価が高いが、気温が高いこの時期の出荷はカビ等による品質低下がおきやすいので、細心の注意を払っていただき、安定出荷をお願いしたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の9月の見通し

名古屋市中央卸売市場

8月19日現在

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	18年	40,675	198	194	196	204	北海道 43%
	19年	38,002	195	188	198	199	長野 21%
	20年	38,204	200	199	207	192	群馬 10%
	21年	36,865	195	212	202	174	青森 4%
	22年	33,487	237	230	237	242	
	5カ年平均	37,447	205	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	35,900	190	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>主な産地は北海道、長野、群馬。土ものは、高温が続いたことで消費が低迷し、価格が下がっている。だいこんやにんじんは、天候が順調で、入荷量が増え、価格が下がっている。 全体での入荷量は前年をかなり上回り、価格は大幅に下回る見込み。</p>							
だいこん	18年	2,824	81	93	78	76	北海道 64%
	19年	2,499	90	93	82	96	青森 23%
	20年	2,311	101	75	119	111	岐阜 11%
	21年	2,557	95	115	99	75	長野 2%
	22年	1,909	113	107	127	107	
	5カ年平均	2,420	95	96	99	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	2,200	90	90	90	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>主な産地は北海道、青森、岐阜。北海道と青森では、播種作業が順調に進み、生育もよい。入荷も安定すると思われる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>							
にんじん	18年	3,084	130	108	127	157	北海道 98%
	19年	2,623	110	105	125	99	中国 2%
	20年	2,966	120	121	122	115	岐阜 0%
	21年	2,828	121	132	125	107	愛知 0%
	22年	2,282	169	181	175	175	
	5カ年平均	2,757	129	127	133	130	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	2,600	110	110	110	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>主な産地は北海道。8月はMサイズ中心だったが、9月にはLサイズが増え、入荷量もピークとなる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

8月23日現在

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	18年	134,745	222	220	219	226	北海道 30% 群馬 15% 長野 15% 青森 7% (愛知産比率 0%)
	19年	130,958	222	226	223	217	
	20年	139,146	215	220	220	205	
	21年	138,503	206	228	208	183	
	22年	125,539	259	246	262	269	
	5カ年平均	133,778	225	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	134,000	225	-	-	-		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道から土物類や根菜類、関東高冷地からは葉茎菜類や果菜類が入荷する。昨年は猛暑による障害の影響により不作傾向で数量減となったが、今年は平年並みが見込まれる。</p> <p>全体の入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
だいこん	18年	12,722	83	92	78	80	北海道 63% 青森 27% 岩手 8% 群馬 1% (愛知産比率 -%)
	19年	11,961	89	94	80	92	
	20年	12,207	100	77	114	110	
	21年	12,912	90	114	89	70	
	22年	11,589	109	103	121	106	
	5カ年平均	12,278	94	96	96	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	11,500	90	90	90	90		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道と東北産地中心の入荷となる。北海道は7月上中旬の低温・降雨の影響で播種遅れがあり上旬に出荷量が少なくなる見込み。青森は作付けは前年並みで生育は順調で前年を上回る見込み。全体の入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
にんじん	18年	6,888	151	129	148	173	北海道 92% 中国 6% 千葉 1% 新潟 1% (愛知産比率 -%)
	19年	6,496	122	108	143	110	
	20年	7,425	125	129	126	120	
	21年	7,345	135	141	137	126	
	22年	7,082	174	179	175	170	
	5カ年平均	7,047	141	138	146	140	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	7,400	120	110	120	130		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道からの入荷が中心となる。北海道は、湿度と夜温の高い状態が続く病害発生懸念はあるが現況は生育順調で、作付け増もあり潤沢な出荷が見込まれる。</p> <p>全体の入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	18年	3,439	95	116	92	86	長野 95% 北海道 5% 茨城 0%
	19年	3,265	85	116	79	66	
	20年	3,058	86	83	92	85	
	21年	2,555	95	94	107	88	
	22年	2,322	103	108	93	106	
さい	5カ年平均	2,928	92	104	92	85	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
い	23年見通し	2,460	90	90	90	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>主な産地は長野、北海道。生育もよく、大玉傾向である。気温が下がれば、荷動きもよくなり、業務筋も活発となる。震災以降消費が落ち込んでおり、価格も下がっている。</p> <p>入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
キャベツ	18年	4,041	97	88	98	104	群馬 67% 長野 23% 北海道 8%
	19年	4,291	83	88	88	72	
	20年	4,391	70	62	79	70	
	21年	3,880	93	94	95	89	
	22年	3,889	91	83	92	97	
さい	5カ年平均	4,098	86	83	90	86	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
い	23年見通し	3,900	70	70	70	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>主な産地は群馬、長野、北海道。8月は山の天候が悪く、孺恋では生育があまり順調ではない。7月末から8月の荷動きもあまりよくない。</p> <p>入荷量は、前年並みで、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
ほうれんそう	18年	243	839	933	768	846	岐阜 76% 愛知 7% 長野 5% 群馬 4%
	19年	230	862	811	981	800	
	20年	250	738	713	956	595	
	21年	315	587	606	664	514	
	22年	159	941	981	1,083	827	
さい	5カ年平均	239	770	784	863	695	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
い	23年見通し	260	680	680	680	680	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>主な産地は岐阜、愛知。飛騨地方では、台風6号の影響で気温が下がっていたが、現在は回復傾向にあり、生育も順調である。</p> <p>入荷量は、前年を大幅に上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	18年	8,592	93	119	91	82	長野 91%
	19年	8,307	77	118	70	53	群馬 5%
	20年	8,197	77	72	82	78	北海道 3%
	21年	8,465	86	90	89	81	茨城 1%
	22年	8,773	99	107	83	106	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	8,467	87	101	83	80	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	8,700	80	80	80	80		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野からの入荷が中心となる。長野は、作付けは増加、作柄は7月は干ばつ傾向であったものの、8月に適度な降雨があり平年並みに回復。 全体の入荷量はやや多かった前年並みが見込まれ、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
キヤベツ	18年	14,262	98	91	100	103	群馬 75%
	19年	14,472	84	92	88	72	岩手 13%
	20年	15,616	67	58	74	80	北海道 6%
	21年	16,271	85	85	80	75	青森 2%
	22年	15,664	92	81	96	99	(愛知産比率 -%)
	5ヵ年平均	15,257	85	81	87	86	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	16,000	65	60	65	70		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬からの入荷が中心になる。群馬は2年続きの高値で作付けは増加、作柄も順調で8月は価格低迷となっている。出荷調整の可能性もあるが順調な出荷が見込まれる。岩手も生育は順調。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
ほうれんそう	18年	1,154	724	843	616	741	群馬 30%
	19年	1,015	764	776	844	682	茨城 29%
	20年	1,126	664	793	763	483	栃木 16%
	21年	1,437	495	537	556	417	岩手 10%
	22年	800	832	822	1,009	735	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	1,106	675	738	729	593	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	900	650	700	650	600		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東高冷地と岩手からの入荷となる。群馬、茨城、栃木とも生育は低温、日照不足の後には高温に見舞われ傷み等も散見される。作柄はやや不良。岩手は順調にきている。全体の入荷量は猛暑で不作だった前年をかなり上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>					

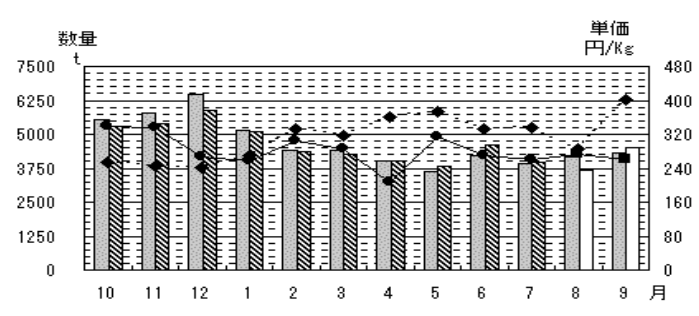
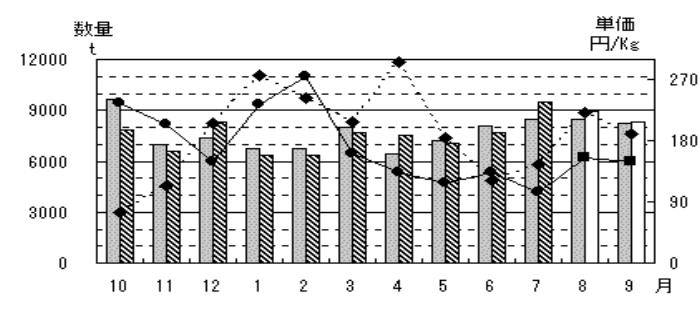
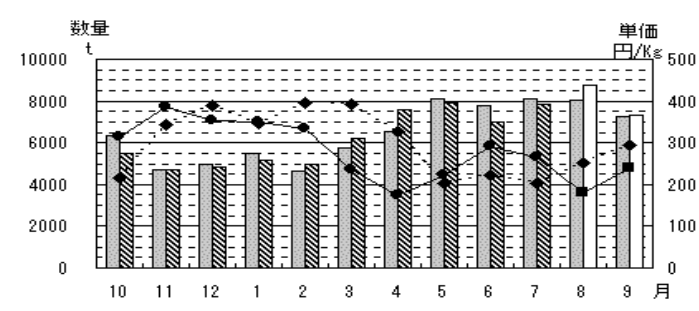
名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ね	18年	950	385	376	388	390	北海道 54%
	19年	992	411	371	405	452	長野 9%
	20年	1,166	372	387	357	374	愛知 8%
	21年	1,125	317	332	325	293	中国 6%
	22年	981	450	394	445	497	
ぎ	5カ年平均	1,043	385	371	381	397	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	1,100	350	350	350	350		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>主な産地は、長ねぎは愛知、白ねぎは北海道、長野中心。愛知では生産者の高齢化が進み、作付面積も減り、入荷量も減っている。白ねぎは入荷量も順調。 全体の入荷量は前年をかなり上回り、価格は大幅に下回る見込み。</p>					
し た す	18年	2,591	134	132	121	153	長野 98%
	19年	2,385	166	141	157	208	群馬 1%
	20年	1,873	228	227	263	189	愛知 1%
	21年	2,168	131	155	148	94	静岡 0%
	22年	2,006	190	192	167	206	
ス	5カ年平均	2,205	166	166	167	169	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	2,000	170	170	160	180		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>主な産地は長野。生育は順調だが、8月の集中豪雨の影響で痛んでいるものが多い。9月には入荷も安定し、数量も増えてくる。 入荷量は前年並みで、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
き ゆ う り	18年	1,643	267	273	255	273	長野 27%
	19年	1,692	260	297	268	217	群馬 24%
	20年	2,316	221	166	233	276	山梨 20%
	21年	1,600	204	277	207	145	北海道 14%
	22年	1,581	332	288	379	343	
り	5カ年平均	1,766	254	253	265	252	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	1,600	280	250	300	300		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>主な産地は長野、群馬、山梨。長野では気温が上がらず、生育状況や花の付き具合が心配。消費が落ち込んでいるため、価格が下がってきている。 入荷量は前年並みで、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	18年	4,817	266	240	282	273	青森 35%
	19年	4,501	337	314	340	356	秋田 14%
	20年	5,495	251	262	251	238	北海道 13%
	21年	5,114	215	243	207	196	山形 8%
	22年	4,305	401	314	368	504	(愛知産比率 -%)
	5カ年平均	4,846	289	273	285	305	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し		4,500	260	260	260		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>青森、秋田、茨城、北海道からの入荷となる。各産地とも干ばつの影響や春先の降雨による定植の遅れ等の影響で生育は遅れている。しかし、盆明けからは適度の雨もあり回復傾向。全体の入荷量は少なかった前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
レタ	18年	9,100	133	130	118	150	長野 85%
	19年	8,660	168	140	168	199	群馬 10%
	20年	7,678	234	245	270	182	茨城 2%
	21年	9,105	126	151	143	91	岩手 2%
	22年	8,236	191	191	173	206	(愛知産比率 0%)
	5カ年平均	8,556	168	169	171	164	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し		8,300	150	145	150	155	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、群馬からの入荷が中心となる。長野は生育は順調で豊作型だが、気温低下により小玉へとシフトしてくる。群馬については局地的な大雨、強風等の影響で品質低下もみられる。全体として入荷量は少なかった前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
きゅうり	18年	7,497	249	264	228	256	福島 25%
	19年	7,692	233	274	231	188	埼玉 15%
	20年	8,352	223	255	201	212	茨城 13%
	21年	8,802	177	257	174	118	群馬 11%
	22年	7,272	295	268	338	291	(愛知産比率 0%)
	5カ年平均	7,923	233	263	231	209	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し		7,300	240	235	240	245	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>東北産地から関東産地への移行時期となる。福島は昨年ほどではないが露地ものに成り疲れがみられる。埼玉、群馬などの関東産の抑制物が下旬からはじまり、生育は概ね順調。全体として入荷量は前年並で、価格は高値であった前年を大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

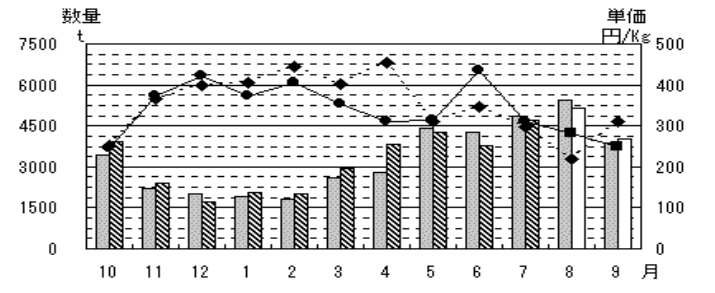
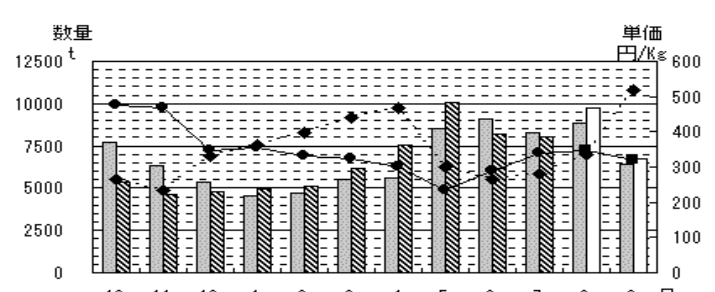
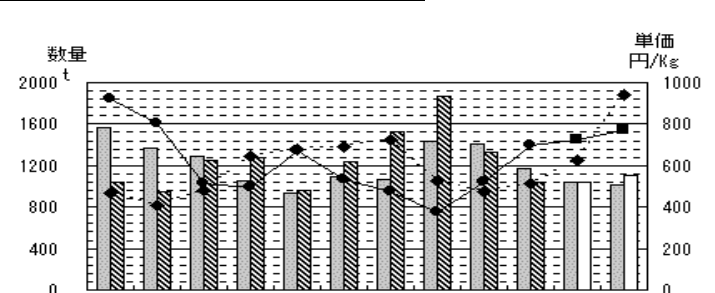
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	18年	882	263	204	260	360	愛知 21%
	19年	959	252	188	291	294	山梨 20%
	20年	900	252	287	238	228	徳島 19%
	21年	1,051	218	236	238	188	群馬 13%
	22年	853	294	228	331	337	
	5カ年平均	929	254	228	270	278	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	900	260	260	260		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>主な産地は愛知、山梨、徳島、群馬。徳島と愛知では、気温が下がっていたものの回復しており、どこの産地も生育は順調である。 入荷量は前年をやや上回り、価格はかなり下回る見込み。</p>					
ト マ ト	18年	1,547	397	392	390	410	岐阜 48%
	19年	1,716	348	369	335	339	北海道 16%
	20年	1,748	299	349	261	296	愛知 9%
	21年	1,408	396	458	401	339	千葉 8%
	22年	1,074	548	518	517	603	
	5カ年平均	1,499	384	407	368	381	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	1,400	380	350	400	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>主な産地は岐阜、北海道、愛知、千葉。8月の中旬に低温が続いたことで、着果状態がよくない産地もある。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	18年	284	742	638	796	820	北海道 75%
	19年	342	734	596	728	910	茨城 9%
	20年	302	711	597	705	868	長野 6%
	21年	345	600	743	642	434	
	22年	339	708	693	791	649	
	5カ年平均	322	697	656	730	729	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	320	700	700	750	650	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>主な産地は北海道、茨城、長野。7月下旬に雨や曇りが続いたことで、生育に遅れがみられたが、現在は回復傾向にある。消費が低迷しており単価が上がらない。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並みの見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

「なす」の数値には「べいなす」を含まない。

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	18年	4,490	249	178	261	342	栃木 31%
	19年	4,070	283	199	336	349	茨城 23%
	20年	4,995	220	232	201	230	群馬 22%
	21年	4,706	212	241	233	171	埼玉 8%
	22年	3,878	310	245	368	337	(愛知産比率 -%)
	5カ年平均	4,428	252	219	274	281	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	4,000	250	220	260	280	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地からの入荷が中心となる。各産地とも局所的な大雨に見舞われ一部で生育遅れもみられるものの概ね順調な出荷が見込まれる。</p> <p>全体として、入荷量は前年をわずかに上回り、価格は8月から続く安値基調で前年を大幅に下回る見込み。</p>					
							
ト マ ト	18年	8,406	333	354	307	348	千葉 20%
	19年	9,020	299	329	274	294	青森 17%
	20年	9,368	265	312	227	260	茨城 15%
	21年	7,792	355	415	358	299	福島 13%
	22年	6,388	517	485	480	596	(愛知産比率 1%)
	5カ年平均	8,195	343	371	318	345	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	6,700	320	320	330	310	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>東北と関東産地からの入荷が中心となる。千葉は樹の疲れがあるものの着果状況は良好、群馬はやや高温の影響を受けやや少なめ、青森は気温低下で玉伸びは落ち着いているが概ね順調。全体の入荷量は猛暑で少なかった前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
							
ミ ニ ト マ ト	18年	1,197	681	608	641	797	北海道 25%
	19年	1,185	628	525	675	694	茨城 25%
	20年	1,345	531	671	518	423	千葉 13%
	21年	1,252	643	678	720	548	福島 7%
	22年	1,010	939	899	999	925	(愛知産比率 3%)
	5カ年平均	1,198	672	669	697	662	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	1,100	770	750	790	770	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、東北産地と関東産地からの入荷が中心となる。茨城、千葉の抑制物は、現況は生育順調であるが出荷量は今後の天候次第。北海道、東北の産地は不安定な天候状況もあり、やや少なめ。入荷量は少なかった前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
							

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	18年	543	339	349	363	312	岩手 32%
	19年	506	363	355	393	338	北海道 28%
	20年	625	240	276	249	197	茨城 21%
	21年	542	262	308	274	211	
	22年	495	402	361	413	432	(愛知産比率 0%)
マン	5カ年平均	542	317	327	334	292	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	500	300	300	300	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量</p> <p>単価 円/kg</p>					
<p>主な産地は岩手、北海道、茨城。 お盆前後で岩手産の単価が落ち込んでいたが、9月には消費も回復するとみられる。 入荷量は前年並みで、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>							
ばれいしょ	18年	3,863	96	101	97	91	北海道 95%
	19年	2,964	77	79	79	72	青森 4%
	20年	3,040	90	95	91	83	愛知 0%
	21年	2,937	102	122	106	85	
	22年	2,601	140	141	146	135	(愛知産比率 0%)
いしょ	5カ年平均	3,081	100	106	102	92	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	2,900	95	95	95	95	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量</p> <p>単価 円/kg</p>					
<p>主な産地は北海道。北海道産の男爵はL玉中心。青森産のメークインは出荷に遅れがみられており、9月の上旬にピークとなる予定。 入荷量は、前年をかなり上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>							
たまねぎ	18年	5,501	82	80	84	80	北海道 89%
	19年	5,112	64	63	65	64	兵庫 8%
	20年	4,804	80	63	65	64	中国 2%
	21年	4,765	99	112	104	84	佐賀 1%
	22年	4,985	101	98	95	108	
ねぎ	5カ年平均	5,033	85	83	82	80	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	5,150	80	67	80	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量</p> <p>単価 円/kg</p>					
<p>産地は北海道、兵庫中心。北海道産は作況にバラつきがあるものの、生育は順調。9月は大き玉傾向となる見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	18年	2,427	294	307	297	278	茨城 41%
	19年	2,272	320	324	365	271	岩手 33%
	20年	2,479	200	240	190	169	青森 13%
	21年	2,285	218	255	221	178	福島 10%
	22年	2,071	360	310	356	420	(愛知産比率 -%)
マン	5カ年平均	2,307	276	286	283	259	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	2,100	250	250	250	250	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城と東北産地からの入荷が中心となる。茨城は秋ピーマンの作付けは増えているが8月の高温で着果不良が心配され量は増えてこない。岩手は順調な出荷が続く、福島は販売環境が厳しく早めの切り上がりが見込まれる。全体として入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
ばれいしょ	18年	7,423	113	114	114	112	北海道 95%
	19年	7,416	86	91	86	80	青森 4%
	20年	7,601	106	108	108	101	(愛知産比率 0%)
	21年	7,773	120	123	119	118	
	22年	7,365	151	147	153	154	
しよ	5カ年平均	7,516	115	117	116	113	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	7,500	120	120	120	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷が中心となる。北海道は地域により遅れがあるところもあるが総体では平年作となっている。今後の玉伸びにもよるが、全体として入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	18年	11,350	87	84	87	90	北海道 84%
	19年	10,910	71	72	72	68	中国 7%
	20年	11,478	84	84	86	82	兵庫 6%
	21年	9,216	116	124	115	109	佐賀 2%
	22年	9,838	113	103	111	125	(愛知産比率 0%)
ぎ	5カ年平均	10,558	93	92	93	94	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	10,000	80	80	80	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道中心の入荷となる。北海道は道南、道央は4～5月の長雨による定植遅れとその後の高温干ばつの影響で不作傾向であるものの主力の道東が平年作が見込まれる。入荷量は少なかった前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
果実計	18年	13,894	339	359	341	321	長野 26%
	19年	12,977	346	361	342	334	フィリピン 19%
	20年	13,757	280	273	297	268	青森 9%
	21年	12,727	285	310	283	267	愛知 6%
	22年	10,656	369	384	368	357	
	5カ年平均	12,802	322	-	-	-	
	23年見通し	11,100	310	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>主な産地は長野、フィリピン、青森、愛知。 春先の低温などの影響で、全体的に小玉傾向である。震災以降の自粛ムードで、ハウスもの等化粧箱の需要が少ない。 入荷量は、前年をやや上回り、価格はかなり下回る見込み。</p>					
みかん	18年	1,367	447	602	490	376	三重 31%
	19年	1,432	431	586	483	335	宮崎 16%
	20年	1,566	334	467	387	264	佐賀 15%
	21年	1,787	305	471	312	243	愛知 13%
	22年	1,275	398	570	432	327	
	5カ年平均	1,485	378	-	-	-	
	23年見通し	1,250	380	0	0	0	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>主な産地は三重、宮崎、佐賀、愛知。 三重は、9月下旬から極早生が出荷され始める 2次生理落果が多く見られたが、全体的に入荷量は前年並みで、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
なし	18年	3,056	301	321	296	285	長野 63%
	19年	2,850	297	304	284	300	福島 8%
	20年	2,959	222	206	233	227	愛知 8%
	21年	2,382	230	239	224	224	新潟 6%
	22年	2,071	374	373	376	374	
	5カ年平均	2,664	281	285	279	278	
	23年見通し	2,200	300	300	300	300	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は長野中心。9月の上旬が出荷のピークとなる。幸水が毎年減ってきており、特に愛知では減少が著しい。代わって、秋月などの新品种が増えている。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
果実計	18年	43,576	321	334	325	337	フィリピン 11%
	19年	39,630	327	334	351	320	福島 10%
	20年	47,979	265	258	279	256	長野 9%
	21年	46,085	259	280	262	240	青森 9%
	22年	37,515	362	372	363	352	(愛知産比率 1%)
	5ヵ年平均	42,957	303	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	43,000	250	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>なし、りんご、ぶどう、みかんなどが入荷する。りんごは開花遅れが回復し、やや小ぶりながら着色、肥大は順調。ぶどうは巨峰、ピオーネを中心に入荷。長野産の巨峰は作付が減少。やや小ぶりだが品質良好。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
みかん	18年	4,232	397	544	415	343	宮崎 49%
	19年	4,487	338	507	345	274	佐賀 16%
	20年	4,714	296	478	320	238	熊本 12%
	21年	4,961	260	401	265	215	愛媛 5%
	22年	3,408	350	494	341	309	(愛知産比率 2%)
	5ヵ年平均	4,360	324	482	334	272	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	4,400	330	450	270	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>ハウスものが終盤を迎え、露地の「極早生」の入荷が本格化する。生育は天候不順による生理落果がみられ、通常の表年と比べて少ない見通し。宮崎は少なかった前年並みの見込み。熊本は肥大が遅れているが昨年を上回る見込み。入荷量は前年を大幅に上回り価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
なし	18年	11,636	278	298	277	261	栃木 26%
	19年	11,262	279	276	269	299	福島 24%
	20年	14,772	198	194	207	190	茨城 17%
	21年	13,836	194	208	191	183	千葉 17%
	22年	11,093	334	348	351	312	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	12,520	251	258	253	243	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	12,000	220	270	200	200	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>福島から「幸水」、栃木、茨城などから「豊水」中心に入荷する。凍霜害、雹害の影響で不作だった昨年と比べて入荷量は多い見込み。茨城はやや小ぶりながら着果良好。栃木も生育良好で昨年を上回る予想。入荷量は少なかった前年を大幅に上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					

切花・鉢花の9月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 8月30日現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	19年	3,177	60	
		20年	3,578	42	
		21年	3,199	49	
		22年	2,243	59	
		4ヶ年平均	3,049	52	
	23年見通し	3,000	50		
概要	<p>今年も猛暑の影響から8月物はやや遅れが見受けられたがお盆が過ぎてやや落ち着きを見せている。暑い状況が続けば全体的に遅れが見受けられるが、気温がやや下がり始めているので、少しずつ秋物は前進する見込み。各産地ともに現状では順調に推移しているので、これからの天候で一気になる可能性もある。</p>				
小 ぎ	実績	19年	2,852	35	
		20年	3,109	24	
		21年	2,500	26	
		22年	2,248	42	
		4ヶ年平均	2,677	31	
	23年見通し	2,500	30		
概要	<p>猛暑の影響は多少あるものの現状では問題ない状況。しかし、秋の彼岸については天候でかなり変わるので、特に露地栽培の小菊は涼しくなれば一気に出荷が終わるので気をつけなければならない。9月10日あたりの天候状況はかなり気になるところである。作付けやなどは昨年とほぼ変わらないため、今後の天候が気になるところである。</p>				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	19年	1,333	44	
		20年	1,182	43	
		21年	1,103	43	
		22年	1,311	39	
		4ヶ年平均	1,232	42	
	23年見通し	1,350	40		
概要	<p>長野、北海道を中心に入荷。生育は順調で今年は全体的に物もよく安定した供給となっている。9月上旬は物もあり、動きが鈍いが、中、下旬は敬老、彼岸需要により堅調な動きになるだろう。</p>				
か す み 草	実績	19年	140	88	
		20年	117	107	
		21年	87	137	
		22年	78	112	
		4ヶ年平均	105	108	
	23年見通し	85	110		
概要	<p>長野、北海道、福島からの入荷。生育は順調、上旬は出荷が多そうだが、中旬以降やや少なめ。価格は業務中心に安定し、中旬以降は強めの動きになりそう。気温が高いと品質にでるため、注意していきたい。</p>				

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	19年	448	170	
		20年	482	150	
		21年	405	158	
		22年	420	165	
		4ヶ年平均	439	160	
	23年見通し	440	165		
概要	<p>OH系は新潟、岐阜、北海道、埼玉からの入荷。前半は量も少ないが、中旬以降は増加してくる。価格は業務中心に安定している。昨年同様短い物が多いとやや価格に影響がでる。LA、鉄砲は彼岸までは少なく、堅調な動きとなる。</p>				
洋らん	実績	19年	506	72	
		20年	503	70	
		21年	437	71	
		22年	549	68	
		4ヶ年平均	499	70	
	23年見通し	560	70		
概要	<p>愛知、鹿児島、静岡等と輸入物が入荷。残暑が厳しい日もあるが、幾分気温も落ちつき、品質、価格とも安定してくると思われる。</p>				
ばら	実績	19年	959	62	
		20年	1,030	63	
		21年	1,029	65	
		22年	909	73	
		4ヶ年平均	982	65	
	23年見通し	1,000	70		
概要	<p>愛知、三重、岐阜、和歌山、長野等から入荷。夏に花を倒しておいた産地が出荷が始まり、ようやく産地が出そろってくる。品質もよくなり、安定してくるとともに業務需要も本格化し、堅調な動きとなる。</p>				
枝も	実績	19年	1,730	42	
		20年	1,917	39	
		21年	1,626	41	
		22年	1,997	32	
		4ヶ年平均	1,818	38	
	23年見通し	1,950	35		
概要	<p>静岡、長野、岐阜からの入荷中心。特に柳類が多く入荷する。山取りや季節感のある物は引合いが強くなりそうだが、柳類は堅調に推移すると思われる。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラセナ類	実績	18年	38,619	692	
		19年	46,156	508	
		20年	35,676	592	
		21年	32,109	560	
		22年	29,127	619	
	5ヶ年平均		36,337	591	
	23年見通し		28,000	600	
概要	<p>生産量微増に伴い、入荷量も昨年より増加か。昨年同様、敬老の日需要で前半に買気が集中しそう。後半は単価は厳しそう。 昨年9月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位埼玉県(55.3%)、2位岐阜県(35.8%)、3位茨城県(8.4%)となっている。</p>				
オンシジウム	実績	18年	10,188	921	
		19年	8,328	917	
		20年	12,115	850	
		21年	7,898	812	
		22年	6,339	796	
	5ヶ年平均		8,974	864	
	23年見通し		6,000	750	
概要	<p>入荷量は昨年より減少か。天候不順と猛暑の影響から、株への消耗が現れ、品質的に今ひとつか。単価は厳しそう。 昨年9月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位愛知県(59.1%)、2位長崎県(15.9%)、3位山梨県(9.6%)となっている。</p>				
アンズリウム	実績	18年	15,540	978	
		19年	16,906	926	
		20年	18,144	849	
		21年	12,509	753	
		22年	10,409	925	
	5ヶ年平均		14,702	1,152	
	23年見通し		10,000	1,300	
概要	<p>入荷量は昨年より減少か。単価は小鉢は厳しいが、大鉢は安定か。 昨年9月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位愛知県(97.9%)、2位三重県(2.0%)、3位静岡県(0.1%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
シャコバサボテン	実績	18年	81,481	425	
		19年	55,466	439	
		20年	64,285	442	
		21年	58,511	370	
		22年	49,516	395	
	5ヶ年平均		61,852	416	
	23年見通し		51,000	390	
概要	<p>生産量が増加のため、入荷量は昨年よりも増加か。5号鉢が主体で中鉢等も若干あり。単価は厳しそう。 昨年9月の主要県の入荷実績（金額ベース）は、1位埼玉県（50.4%）、2位愛知県（38.8%）、3位茨城県（10.8%）となっている。</p>				
シクラメン	実績	18年	95,505	146	
		19年	63,339	110	
		20年	57,565	147	
		21年	86,577	150	
		22年	81,102	149	
	5ヶ年平均		76,818	142	
	23年見通し		86,000	145	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。中旬以降ガーデンシクラメンから入荷が始まり、残暑がなくなる下旬頃から引き合いが強くなる。4～5号鉢は10月以降、入荷が始まる。 昨年9月の主要県の入荷実績（金額ベース）は、1位長野県（33.9%）、2位埼玉県（26.7%）、3位愛知県（17.0%）となっている。</p>				
カランコエ	実績	18年	84,730	177	
		19年	69,661	185	
		20年	76,748	205	
		21年	78,366	191	
		22年	63,300	181	
	5ヶ年平均		74,561	188	
	23年見通し		65,000	180	
概要	<p>生産量微増に伴い、入荷量も昨年より増加か。昨年同様、敬老の日需要で前半に買気集中しそう。後半は単価は厳しそう。 昨年9月の主要県の入荷実績（金額ベース）は、1位埼玉県（55.3%）、2位岐阜県（35.8%）、3位茨城県（8.4%）となっている。</p>				

主要農林水産物の輸出入実績 (2011年)

1 輸入実績

品名	6月						6月までの累計					
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
	トン	%	千円	%	円/kg	%	トン	%	千円	%	円/kg	%
野菜(生鮮・冷蔵)	55,826	109.6	4,354,453	108.5	78	98.9	466,443	123	40,042,666	109	86	88.7
トマト	172	146.8	47,432	131.5	276	89.6	981	60	307,112	49	313	80.5
たまねぎ	27,301	94.1	734,875	72.5	27	77.1	201,904	127	9,006,680	119	45	93.9
にんにく	1,263	113.5	247,260	128.1	196	112.9	8,082	94	1,854,165	139	229	147.7
ねぎ	4,680	123.7	411,456	117.6	88	95.1	25,869	117	2,179,479	108	84	92.1
ブロッコリー	2,522	81.4	430,026	83.6	171	102.6	15,169	95	2,596,359	88	171	93.2
結球キャベツ	903	70.6	23,693	54.5	26	77.2	18,955	159	628,884	136	33	85.1
にんじん・かぶ	5,655	144.8	231,541	131.3	41	90.7	43,767	210	2,092,715	192	48	91.5
ごぼう	2,800	119.7	214,100	151.6	76	126.7	20,100	127	1,945,678	221	97	174.3
えんどう	210	277.3	57,487	333.6	273	120.3	1,057	93	285,176	93	270	100.3
アスパラガス	226	115.5	135,575	116.3	599	100.7	7,397	99	3,532,031	99	477	100.4
まつたけ	1	18.3	9,655	21.8	9,655	119.1	1	18	9,655	22	9,655	119.1
しいたけ	185	117.8	51,008	114.7	275	97.4	2,738	89	708,086	91	259	102.9
かぼちゃ	5,406	304.5	412,422	239.8	76	78.8	88,725	110	5,599,294	103	63	93.6
果実(生鮮・乾燥)	192,309	97.8	24,620,401	96.8	128	98.9	997,388	99	116,365,696	97	117	97.7
バナナ	100,320	94.1	7,557,956	96.4	75	102.5	549,098	97	37,302,457	94	68	96.7
パイナップル	16,042	128.8	1,029,424	137.7	64	107.0	75,438	113	4,447,418	107	59	94.7
レモン	4,215	95.2	465,259	78.0	110	81.9	23,091	97	2,528,438	78	109	80.5
オレンジ	21,476	90.1	1,990,192	85.6	93	95.0	74,304	105	6,988,488	102	94	97.3
グレープフルーツ	20,245	121.5	1,291,666	120.4	64	99.0	103,204	91	8,999,973	79	87	87.5
メロン	2,694	132.8	278,580	130.1	103	98.0	19,117	117	2,014,835	113	105	97.0
ぶどう	356	207.1	80,267	211.6	226	102.2	8,233	117	1,381,563	126	168	107.9
キウイ	7,404	91.0	2,294,937	91.7	310	100.8	34,664	103	10,843,062	99	313	96.8
いちご	341	163.6	276,092	161.3	810	98.6	379	156	305,801	156	807	100.2
切花(生鮮・乾燥)	2,754	112.8	1,805,015	100.2	655	88.8	18,497	98	13,050,513	94	706	95.8
鳥獣肉類	159,174	97.8	70,770,659	98.8	445	101.0	911,364	107	399,468,176	110	438	102.5
牛肉(くず肉含む)	35,951	82.2	15,793,365	86.6	439	105.4	240,612	105	101,482,463	107	422	101.9
豚肉(くず肉含む)	71,006	92.4	37,279,112	92.4	525	100.0	394,474	103	206,810,782	103	524	100.0
鶏肉	44,617	128.7	12,922,897	156.4	290	121.5	230,416	116	62,058,586	141	269	122.4
水産物(生鮮・冷蔵・冷凍)	148,262	103.1	76,945,438	101.0	519	98.0	852,450	99	456,003,802	107	535	107.9
まぐろ類	14,128	75.9	10,414,665	75.0	737	98.9	84,374	80	71,782,165	93	851	115.3
さば・さんま・あじ・いわし	5,372	99.9	820,246	90.3	153	90.3	39,093	88	6,523,370	93	167	105.5

2 輸出実績

果実(生鮮・乾燥)	96	67.0	73,113	52.5	762	78.4	10,710	77	3,490,056	82	326	106.2
うんしゅうみかん	2	43.2	1,685	25.1	843	58.0	147	63	95,082	92	647	146.0
りんご	59	75.3	21,931	67.4	372	89.5	10,171	77	3,001,415	82	295	106.6
なし	-	-	-	-	-	-	21	49	8,750	48	412	97.0
野菜(生鮮・冷蔵・乾燥)	-	-	112,599	53.4	-	-	-	-	983,874	77	-	-
緑茶	252	148.0	494,631	128.5	1,963	86.8	1,186	119	2,327,500	118	1,963	99.9

資料 農林水産省大臣官房統計部「農林水産物輸出入情報」

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数 (全国 平成17年 = 100) (愛知県 平成17年 = 100)				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全 国	21年平均	100.3	103.3	98.9	105.6	104.4
	23年 2月	99.3	116.3	107.4	103.7	100.9
	3月	99.6	111.6	102.3	104.0	102.0
	4月	99.9	110.1	89.5	104.4	102.3
	5月	100.0	101.6	100.6	103.6	101.7
	6月	99.9	108.9	107.3	103.5	101.8
愛 知 県	21年平均	100.9	100.6	100.0	102.4	103.6
	23年 2月	98.9	106.8	107.9	100.5	95.1
	3月	99.2	99.3	100.9	101.4	98.4
	4月	99.5	103.0	88.8	104.7	100.9
	5月	99.5	97.5	97.0	103.1	99.6
	6月	99.7	107.1	105.7	104.7	102.3

項目 年月		農業物価指数 (平成17年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
21年平均	21年平均	95.7	98.0	100.7	91.5	98.5
	23年 2月	105.1	85.6	126.4	134.1	102.3
	3月	100.3	85.6	113.0	103.7	103.3
	4月	95.6	86.0	92.0	81.1	103.4
	5月	92.6	86.4	88.2	91.3	103.6
	6月	95.7	86.4	108.3	105.1	103.5

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単一品種、「コシ加」以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご(ふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
21年平均	2,236	158	172	603	419	313	142	314	203	510	615	201	447
23年 2月	1,827	203	163	722	644	321	136	305	316	583	556	165	494
3月	1,806	193	181	635	397	361	151	333	292	485	525	160	476
4月	1,777	162	266	577	409	484	158	489	287	386	511	156	467
5月	1,809	125	200	595	279	430	127	400	267	398	499	164	516
6月	1,797	109	194	651	338	401	145	332	204	514	504	172	502
品目 単位 年月	みかん	グレープフルーツ	オレンジ	いちご	バナナ	キウイフルーツ	緑茶(せん茶)	カーネーション	きく	バラ	豚肉(ロース)	牛肉(ロース)	まぐろ
	1 kg			100g	1 kg		100g	1 本			100g		
21年平均	604	312	382	143	254	682	603	162	166	326	223	752	479
23年 2月	699	319	382	151	217	842	544	145	160	294	211	744	396
3月	731	268	354	136	222	785	536	151	166	293	204	802	412
4月	-	307	378	119	230	878	552	145	156	302	222	851	405
5月	-	283	344	130	227	795	551	168	156	307	218	855	407
6月	-	280	354	-	224	733	544	143	159	293	233	818	411

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



いいともあいち運動って知ってる？

県内の消費者と生産者が今まで以上に**いい友**関係になる

Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

= もっと愛知県産品を食べよう (利用しよう)

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えていこうという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート 459
平成23年9月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6417